

◎会計管理者兼会計課長（沢野敏紀君） それでは、小川議員御質問の平成23年2月末現在における公金の状況につきましてお答えいたします。

初めに、1日平均残高についてでございますけれども、歳計現金、平たく言えば白山市の手持ち現金となりますけれども、これにつきましては約19億2,800万円、基金につきましては約44億8,800万円、歳入歳出外現金、これも簡単に言えば市営住宅等の敷金という一時預かり金でございますけれども、預かり金のほうが約1億3,800万円、それから、一時借入金につきましては1億100万円となっております。

次に、それぞれの運用収入・利回りにつきましては、まず、歳計現金につきましては、定期預金として総額30億円を金利0.4%から0.47%で、また、普通預金につきましては0.02%で、運用収入総額につきましては今年度末見込で約200万円となっております。

次に、基金につきましては、定期預金として総額40億円を金利0.461%から0.55%で、また、一般会計等への繰替え運用分、これはいわば手持ち現金が不足する場合に基金から一時借り入れする分でございますけれども、これにつきましては0.03%から0.06%で、運用収入総額につきましては今年度末見込みで約1,500万円となっております。

それから、歳入歳出外現金につきましては、歳計現金と合わせまして一括で管理運用いたしております。

なお、一時借入金につきましては、現在0.671%の利率となっております。

次に、それぞれの平均残高の前年度との比較の増減についてでございますが、最初に、歳計現金につきましては約1億2,800万円の増額となっております。その理由につきましては、新北部工業団地の用地売却代金約14億円、早期に借り入れをいたしました臨時財政対策債25億円の収入が主なものでございます。

一方、歳出面におきましては、下水道事業特別会計の公営企業への移行に伴いまして、総体的に支出の額が減少したものでございます。

次に、基金につきましては、約1億1,000万円の増額となっており、新たに3億円を合併振興基金として積み立ていたしましたけれども、このことによりまして増加をいたしております。

また、歳入歳出外現金につきましては、約500万円の増額となっており、契約保証金の保管金がふえたことによるものでございます。

最後に、一時借入金につきましては、約7億2,400万円の減となっております。これにつきましては、歳計現金の残高が昨年に比べまして大きくなったということで、結果的に少なくなったものでございます。

それから次に、公金の安全性・効率性確保のための保全・運用管理についての御質問でございますけれども、これまで資金の管理運用につきましては、1点目といたしまして、歳計現金等及び現金につきましては元本確保に努める、2点目といたしまして、歳計現金等は支払準備金に、また、基金につきましては将来の計画に、それぞれ支障のないよう流動性の確保に努める、3点目、効率的な運用に努める、以上の3点を基本といたしまして、これまで安全性と確実性を第一に運用してまいりました。

具体的な取り組みにつきましては、ペイオフ対策といたしましては、歳計現金等は無利子の決済性預金による管理を基本としながら、数日単位の短期的な余裕資金につきましては、平成20年6月から普通預金により運用いたしまして、利子の収入を確保いたしております。

また、定期預金の運用につきましては、健全性の高い金融機関を選定するとともに、万一の場合に備えまして、預金債権と借入金とが相殺できるよう配慮いたしているところでございます。

一方、一時借入金の利率につきましては、金融機関との交渉によりまして、平成22年4月基準日から0.4%引き下げいたしました。したがって、昨年と比べまして約500万円の利子負担の軽減を図ったところでございます。

今後とも、市場金利の動向など金融経済情勢の変化を十分に見ながら、引き続きまして安全・確実な公金の保全・管理に取り組んでまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。